

令和7年度 糖尿病チーム PDCAサイクル

【背景】

- ・2026年現在、1型糖尿病の標準治療として、インスリンポンプによる自動インスリン投与が国際的に推奨されているが、当院では未だ普及していない。
- ・導入時の入院自体が患者さんには障壁となり、外来導入が求められていた
- ・導入には専門性と経験を要するため、対応可能なスタッフが限られていた。
- ・患者さん自身にインスリンポンプの選択肢が十分に知らされていない。

【目的】インスリンポンプの外来導入を確立し、新規導入件数を増やす

【方策】

- ・スタッフの知識と技能の均てん化と質の向上
- ・導入手順の標準化・明文化；ケアプロセスシート作成
- ・患者さんや市民に対する周知活動



Plan

1. インスリンポンプ勉強会の実施

- ①ハンズオン(1)(ポンプの装着、操作)
- ②ハンズオン(2)(センサー装着、ポンプとの連動)
- ③データ解析方法(ケアリンクレポートTMの読み方)
- ④実際の指導場面のロールプレイ

2. インスリンポンプ外来導入ツールの作成

- ケアプロセスシートの作成
- 外来導入時のカルテテンプレートの作成

3. 周知活動の準備に着手

- ホームページにインスリンポンプの項目を作成する
- インスリンポンプの日(7月5日)のイベント実施の勉強会



Do

Action

Check

1. 病棟導入の増加に対し、病棟スタッフへチェックリストの周知を行う

担当病棟で勉強会を行う

2. 地域の医療機関に、インスリンポンプ診療についてお知らせする

地域連携の会、えんへの掲載

3. 一般市民への啓発活動を実施する

インスリンポンプの日 ホールでの展示



1. 新規導入；昨年1年0名⇒6か月で外来3名、入院3名

2. 外来、病棟とも大きなトラブルはなく、手順は妥当であった

3. 病棟導入の増加に対して、病棟スタッフへの教育が必要

4. ポンプの適応患者は地域医療圏には潜在しているであろう

